

世界を変えよう基金報告書

団体名：インドワークキャンプ団体 namaste! つくば支部

活動内容：インドのハンセン病コロニーにおいてワークキャンプ活動を実施

し、回復者の社会的尊厳の回復と経済的自立を促進すること。

活動期間：【マニプールコロニー】 2019/2/25~3/15

【ビシュナプールコロニー】 2019/03/07~3/29

【チャクドラコロニー】 2019/03/1~3/21

プログラム実施に至った経緯と目的

私たちはインド国内のハンセン病回復者とその家族に対する差別解消を目的として活動しています。ハンセン病コロニーの人々は差別が原因で進級・進学が難しく、定職に就くことができないために、物乞いで生計を立てている人も少なくありません。そのため最低限度の生活環境が保障されず、その状況がコロニー街の人からの差別をさらに助長させるという悪循環に陥っています。私たちはワークキャンプを実施することでコロニーの生活環境を改善するとともに

に、外部の人が抱く差別意識の解消を目指しています。

2019年春キャンプ報告

私たちは2019年の春に、3つの活動地でワークキャンプを実施しました。活動地はインド西ベンガル州に位置するビシュナプールコロニー、マニプールコロニー、チャクドラコロニーの3村です。ビシュナプールは人口約120人、マニプールは約1000人、チャクドラは約40人とこの3つのコロニーは規模が異なります。また、それぞれのコロニーが抱えている問題も異なります。

ビシュナプールコロニーでは、屋根の老朽化による雨漏りという生活環境の課題を解決するために、屋根の修繕を行いました。また、今後の活動方針を固めるために、コロニーにはどのようなニーズがあるのか、そして、そのニーズの中で何を優先すべきなのかを詳しく調査しました。

チャクドラコロニーでは、村人をワーカーとして雇い住居新築一軒の建設を現在も進行中で、五月中旬には完成予定です。キャンプ中には、全家屋のリサーチをこなし、次回キャンプでのワーク内容を決定できました。

マニプールコロニーでは、実施したリサーチを通じて、わびねすの目指すコロ

ニー像の要素の一部達成を確認することができました。また、ワークでは現地の大工を雇い、Old Age Home（日本でいう独居老人棟）の修繕を行いました。無事、塗装以外は完成しました。

プログラムの達成状況

ビシュナプールコロニーでは、村人と協力して、11軒の屋根をワークキャンプ中に完成させることができました。また、リサーチや村人とのミーティングを通して、次回以降のワークキャンプでは家屋の新築、その次は、水浴び場の整備を行うことが決定しました。

チャクドラコロニーでは、日本人が決定した家屋修繕の優先順位に不満を持っていた村人がいたが、今回リサーチでは家の破損状況を点数化することでこの問題を解決することができた。そして、次回キャンプで修繕する家屋を決定することができた。

マニプールコロニーでは、非差別意識および自助意識の現状を調査しました。被差別意識に関しては多大ではないものの、コロニー周辺の村からの差別がいまだに存在することが発覚しました。自助意識に関しては、多くの村人が

コロニーのために何かしたいと考えており前向きな結果が得られました。

活動を通じて得た成果や喜び

ハンセン病コロニーに滞在し、インフラ整備やリサーチといった活動だけではなく、日々の生活の中での村人との交流を通して、「支援者」と「被支援者」のような一方的なものではなく、お互いを名前呼びあえるような「わたし」と「あなた」のような対等かつ双方向的な関係を築くことができました。また、日本人のキャンパー同士も、同じ目標に向かって共同生活をしながら活動するという貴重な経験をすることができました。

今後の抱負

この1年間で団体の規模がさらに大きくなり、活動の幅がさらに広がると考えています。インドだけではなく、国内でも様々な活動をしていく上で、団体としての目的や理念への意識が薄れてしまわぬよう、この活動を行う意味を考え、話し合えるような場を積極的に設けていきたいと考えています。また、筑波大学のみならず、全国の他大学にも同じような活動をしている学生団体が多

く存在します。他団体との交流も盛んにしていきたいと考えています。

【ビシュナプール】



ワークの手伝いをするキャンパー



完成した屋根

【チャクドラ】



ワークの手伝いをするキャンパー

【マニプール】



リサーチの様子



キャンパーと村の子供達